


チームラボ ATEN HDMIビデオ分配延長ソリューションで
社内コミュニケーションシステムを構築
各フロアの映像を別フロアのディスプレイにリアルタイムでストリーミング

	<p>チームラボ株式会社</p>
	<p>チームラボ株式会社(以下、チームラボ)は、東京都文京区に本社を置く、独立系システムインテグレート企業である。スタッフは様々なジャンルのスペシャリストから構成されており、その職種はプログラマー・エンジニア、数学者、建築家、CGアニメーター、Webデザイナー、グラフィックデザイナー、絵師、編集者など多岐にわたる。独創的なアイデアを最先端のテクノロジーで表現して世に送り出された同社の製作物は、それを見たり触れたりする人の遊び心を刺激し、その意外性や芸術性から国内外で非常に高い評価を受けている。</p>



導入前の課題

別フロアにいるメンバーとでも気軽にコミュニケーションが取れる製作環境を構築したい



チームラボ株式会社
社内システム室 室長
Audio/Visual テクニカルチーム リーダー
土方久明様

チームラボは、数か所に展開していたラボ(オフィス)を2012年に統合し、本郷の新オフィスに移転。以前は2フロアだったオフィスが、移転によって4階から7階の4フロアに分かれることになった。

自他共に認める「ウルトラテクノロジスト集団」であるチームラボ。スタッフは皆、各ジャンルのスペシャリストとして「ものづくり」に真摯に取り組んでいる。製作の過程で特に重視しているのは「メンバー間のコミュニケーション」。社長も「いい作品を生み出すには、コミュニケーションが不可欠だ」と考えているそうだ。実際、スタッフ同士のコミュニケーションも頻繁で、みんな仲が良いという。

移転の準備が進む中、社内システム室の室長である土方氏は、社長からあるミッションを言い渡された。それは「どのフロアにいても、社内で仕事しているメンバーの様子がいつでも見られて、気軽に声かけられる環境の構築」であった。移転による環境の変化で、社長が最も危惧したのは「物理的な空間の隔たりによって、メンバー間のコミュニケーションが希薄になること」であったそうだ。

こうして土方氏は、複数のフロアに分かれた新オフィスでの仕事場の空間を一つにつないで、スタッフ間で気軽にコミュニケーションを取れる方法を模索することになった。

購入のポイント

低予算でHDMIを延長分配するVS1808T & VE800Rに。ATEN製品の品質は導入実績で確信



VS1808T
8ポートHDMI延長分配器



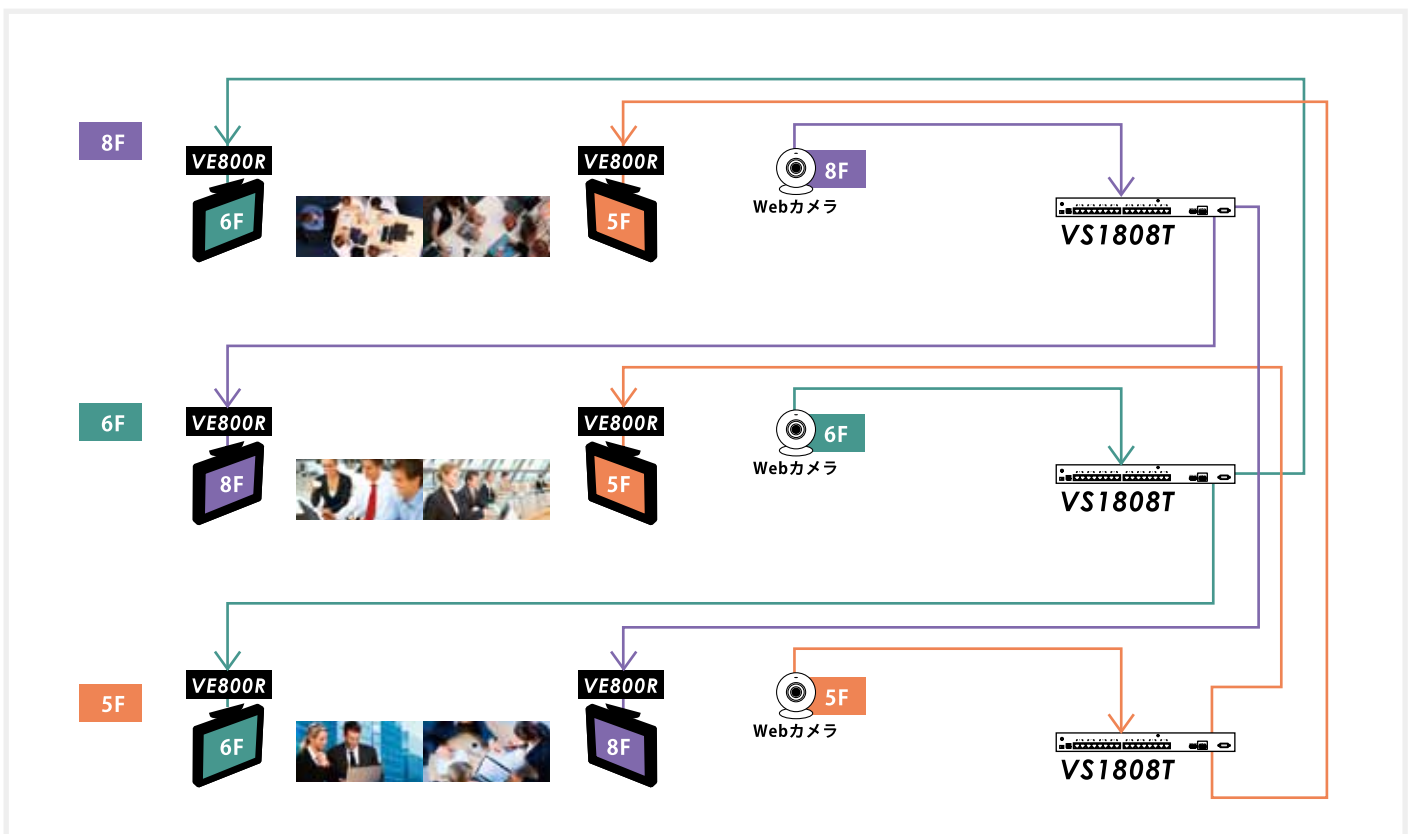
VE800R
VS1808T用レシーバー

土方氏は悩んだ末、各フロアをWebカメラでつないで相互にコミュニケーションできるシステムを考案。具体的には、市販のWebカメラとディスプレイをフロアごとに設置し、各カメラがとらえたライブ映像をそれぞれ別のフロアにあるディスプレイに配信する仕組みである。こうすることで、スタッフは違う階にいるメンバーの状況も簡単に把握できるし、カメラを見ながら別のフロアの人に声をかけられるので、まるで同じ空間にいるかのように作業をすることができる。

これを実現するのに必要な条件は3つあった。1つ目は、映像や音声を物理的な配線で延長できること。IP方式で信号を送る機器では、ネットワークの帯域に負荷がかかり、他の業務への影響が懸念されたからだ。2つ目は、HD伝送が可能であること。大型ディスプレイに出力するため、高精細なHDMIコンテンツを延長できるソリューションが求められた。そして3つ目は、これらの要件を満たしながら、品質や安定性に優れ、なおかつ費用を最小限に抑えられる機器であることであった。

Audio/Visualテクニカルチームのリーダーでもある土方氏は、かつて他社製品によるトラブルを、ATEN製品へのリプレイスで解決に導いたことがあった。また、他にもATENビデオ製品を導入したこともあり、ATEN製品に対する信頼も厚かった。このような経緯から、今回もATENに相談し、最終的には8ポートHDMI分配延長器「VS1808T」と専用レシーバー「VE800R」を使って、下図のような社内コミュニケーションシステムを構築することになったそうだ。

構成図



導入の効果

コミュニケーションの活性化に一役。技術情報の共有や機器の効率的な検証という副産物も

このコミュニケーションシステムで配信されるライブ映像は遅延もなく、複数の空間をリアルタイムでつなぐことができるので、フロアが分かれていることを意識せず製作に取り組んでいるようだ。スタッフも面白がって活用してくれており、当初、懸念していた、コミュニケーションの問題も回避することができた。

そして、これに加えて、作品の製作に係わる技術的なノウハウの面でも効果があったと土方氏は語る。チームラボの作品はCGやHDMIコンテンツを扱うことが多く、これらを出力する機材を自ら選定することもあるとのこと。同社にとって、今回の導入は社内システムの構築であると同時に、今後の製作で使用する可能性のある技術や機器の事前評価ができる絶好の機会でもあった。

今回の導入を通じて、HDMIコンテンツが延長分配できるということを具体的な形でスタッフに示すことができた。そして、「VS1808T」と「VE800R」というATEN HDMIソリューションに対して、具体的にどのメーカーのディスプレイやWebカメラが組み合わせて使えるかというノウハウも蓄積することができた。実際に、あるメンバーからは、VS1808Tのようなビデオ延長分配器を使えば、HDMI信号でも分配や延長ができるということを知って驚いた、という声が上がったそうだ。また、今後、これと類似したサイネージシステムを受注した場合は、このシステムでの事例をもとに機器構成を決めればよいので、非常に効率的である。

同社の持ち前のチーム力に加えて、技術的なノウハウが厚みを増したことで、優れた作品を生み出す土台が更に強固なものになったと言えるであろう。

感想・今後の展開

国内の窓口に安心感。ビデオウォール関連でも品質と価格のバランスが取れた製品に期待



ミーティング用テーブルごとに設置されたビデオスイッチャー VS-291。今回紹介した製品以外でも社内でも活用されているATENビデオ製品は多いとのこと

土方氏は、今回導入したビデオソリューションのコストパフォーマンスもさることながら、製品検討から購入後まで一貫したATENジャパンのフォロー体制も高く評価している。

「このシステムの運用を始めた頃、表示が思うようにならない部分があったので、担当営業の方に相談したのですが、すぐにサポートの方を現場に連れてきてくれて対応してくれたので、大変助かりました。台湾のメーカーですが、国内に販売とサポートの窓口があるので、安心感がありますね。」

チームラボでは過去のトラブルをきっかけにATEN製品を使い始めたというのは先に述べたとおりであるが、このコミュニケーションシステム以外にも、社内のあちこちでATEN製品が活用されていた。過去に使ったことのある大手メーカーの製品は、もちろん品質面では申し分がないが、高価なものが大半だ。その点、ATEN製品は導入しやすい価格帯でありながら、これらのメーカーに引けを取らない使用感が得られると感じているようだ。今ではビデオ製品が必要になった時には、真っ先にATEN製品から検討している、と土方氏。同氏が他部門にも積極的にATEN製品を推薦した甲斐もあって、今ではチームラボ社内でも、ATENのビデオ製品は手頃な価格帯で品質もいいということで評判だそうだ。

土方氏は、自身が係わるプロジェクトにおいて、今はデジタルサイネージやCGが活況だが、今後はビデオウォールが盛り上がりを見せると予想している。今後、ATENビデオソリューションには、ビデオウォール関連の製品でも、既存のラインナップと同様に品質と価格のバランスを維持した、安定性の高い製品を期待したい、というコメントをいただき、今回のインタビューを締めくくった。